



## 特集 地域貢献 / 社会貢献



音楽のチカラを体感しました！  
(とっておきの音楽祭東京世田谷IN烏山)  
BBB (ブラック・バード・バンド：烏山福祉作業所)  
ON STAGE!

### トピック 情報技術の革新は生きにくさを抱えた人を優先に

IT (情報技術)、ICT (情報通信技術)、IOT (TはTHINGSの意、遠隔操作など物と繋がる) は、めまぐるしく進歩し、防災や医療、福祉、教育分野で大きな力を発揮しています。反面、国防等の機密情報の漏洩で国家間の緊張は高まっています。情報技術はメリットとデメリットがあり、デメリットの弊害は極めて大きいです。

また、SNSの普及と5G時代到来により、個人の思考は瞬時に他人の影響を受けやすく「よい」「わるい」で両極に分断され、意見を戦わせる機会はますます少なくなっているように思います。そんな中、若者の理解力(文章読解力や人の意見や気持ちを把握する力)が極端に衰えているという報告がありました。また、そのことで、政治や世の中の動きを把握することが困難で、政治への関心が極めて薄くなっていると感じていました。選挙の投票率が低いのは、若者ばかりではないと思いますが、若い世代で政治離れが加速している事実を、その研究は裏付けています。

政治に関心が少ない世代が日本の中核を担う2040年以降は、かつて経験したことのない時代に入ると言われています。働く世代が半数以下となるばかりでなく、教育費の高騰、雇用の不安定、非婚化、単身化等で、加速度的に出生率が減少し、日本が多民族国家になる日は、そう遠くないと言われています。

極めて高度な情報技術や通信技術は、国家や一握りの人のためにあるのではなく、生きにくさを抱えた多くの人のために使われなければ意味を持ちません。来るべく超少子高齢社会に立ち向かうには、貧困や高齢、障害などで生きにくさを抱えた人が孤立することなく、生きやすい社会を目指すことで、国民全体が生きやすい共生社会になるしかないと思います。今後日本の将来は、個人個人が自分の能力を、人や社会のために有効に活用できるかどうかにかかっています。

# 特集

## 地域公益活動への取り組み

### 福祉を取り巻く現状

日本は既に、超高齢少子社会に突入しており、国の社会保障費は二一三に追いつく状況ではないことは、政府が平成28年に閣議決定した「一億総活躍プラン」、同時期に厚生労働省がまとめた「我が事丸ごと地域共生社会」、その翌年出された「社会福祉法改正」で明白です。社会保障制度だけでは今後の日本には対応出来ないのが現実なのです。

### 社会福祉法人への期待

そういう意味で、これからの社会福祉法人には、大きな役割が期待されています。障害者も高齢者も主体的な構成員となる社会づくり、地域作りを社会福祉法人が中心となって実現していくということです。言い方を換えれば福祉が国を救うという、社会福祉法人の大きな転換期を迎えています。



ピーポクんの家と、赤ちゃんふらっと (リンクス桐田)

**「関係機関との連携」**  
 自立支援協議会・障害者団体連合会・卒後の会・就労連絡会・相談支援連絡会・子どもの発達を支援する連絡会・地域公益活動推進連絡会・ひきこもり連絡会・子ども食堂連絡会・生活支援体制整備事業連絡会・東京都社会福祉協議会地域福祉推進委員会など。武蔵野会のネットワークはこれからも拡大していきます。



かけこみ110番 (八王子福祉作業所)

刈り」「家具の設置」等々様々な困りごとをサポートしています。

かし、実践するのは地道な地域貢献の積み重ねだと思えます。全ての法人が地域での一つ一つの取り組みをすれば社会を大きく変えていくことに繋がると思えます。

それが、改正福祉法で謳われた地域公益活動の責務化だと思います。国は社会福祉法人や地域住民への丸投げだという声も聞かれますが、既に国にすぎずる時期はとっくに過ぎていきます。繰り返しますが社会福祉法人は連携して社会福祉を引っ張る立場にあると思います。

### 武蔵野会の取り組み

武蔵野会は、まだまだ十分な活動を展開していると言えませんが、長期計画に社会貢献を具体的に盛り込み、制度の狭間で生きにくさを解消できない方々の支援を出来ることから実践してきました。本文でも触れている、HIVの長期療養者の支援のための冊子を作

### 「配食サービス・子ども食堂」

社会福祉協議会と共同で、一人暮らし高齢者を対象とした配食サービスを行ったり、企業や家庭から賞味期限の近い食材を集めてキッチンカーで調理し、集まった方にふるまいSDGsのミニワークショップで環境問題の啓発活動を行ったり、もちろん、子ども食堂の展開も行っています。

### 「各種公開講座の開催、研修講師の派遣、啓発・研究事業」

地域向けの公開講座や法人内部研修の地域他法人事業所への開放、小中学校や専門学校・大学への講師派遣、LGBT啓発活動、HIV陽性者の福祉施設受け入れのための課題と対策の研究といった学術研究分野での地域貢献を行っています。

### 「累犯障害者地域定着支援」

司法と福祉のはざままで居場所を失ってしまった累犯障害者の地域定着支援を行い、負の連鎖を断ち切っていくお手伝いをしています。アパート、グループホーム、入所施設等、本人の希望により支援を初めてから8年が経過しました。

り全国の施設や行政に配付し出向いて研修を行っています。冊子は11年目に入り改訂版を作るまでになっています。また、障害や貧困孤立で生きるために罪を重ねる高齢者や障害者の地域定着支援。成年後見の申し立てが困難であったり費用が用意できない人のための法人後見センターを設立し10年が経過するなどです。

今回は、不十分なながらも、法人の複数施設で実施している取り組み事例と各地区での取り組み事例の一部を紹介いたします。

まだまだ、地域福祉のきっかけに過ぎない事例もありますが、様々な人や団体、行政とつながり地域の大きな財産になればと思っています。

### 複数の施設での取組事例

**「地域お助け隊」**  
 実際には様々な名称でチームを作っていますので「お助け隊」に限定はしていませんが、地域の皆さんの困りごと全般の解決をお手伝いしています。いわゆる駆け込み型サービスというものです。「家事代行」「粗大ごみ出し」「草

### 「災害時の福祉避難所開設」

地域行政ならびに地元町会との連携により、大規模災害時の要配慮者緊急避難先としての指定受託あるいは協定を結んでいます。パニックになりがちな災害時の対応について、日ごろから避難所設置や運営訓練を行っています。

### 地区での取り組み事例

#### 地域ミーティング

大島地区

大島では、平成30年5月から毎月1回、大島町医療センター会議室で「地域ミーティング」を実施しています。大島の両施設で企画し、武蔵野会の理事でもある精神科の今坂医師と共に、地域の福祉関係者に声をかけました。大島町福祉けんこう課の方や、大島医療センターの方、大島保健所保健師さんの他、大島の福祉事業所の方などが集まり、地域の課題を協議しています。

これまでに、地域の困り事や福祉を利用できていなかった方たちが、受給者証を取得し福祉に繋が

### むさしの武蔵野

#### 2020年からの「えみふる」

向こう10年の指定管理を武蔵野会が受けることが6月の議会で正式に決まりました。千代田区は他区とは異なり、区民の人口が少ない、独特な区と捉え、今後の方針を述べてみたいと思います。

障害等があるなしに関わらず、共に支えあう地域を実現するため、「えみふる」は中心的な役割を果たすべき立ち位置であると考えています。障害等のある方とない方が出合い、一緒に活動することで互いを理解し、親しみや尊敬の感情をもつことができるように、講習会・公開講座等を通じて互いに理解を深め、合理的配慮がなされるように普及啓発に努めて、住み慣れた地域で自分らしい生活が続けられる地域共生社会の実現を目指していきます。

ライフステージごとに継続的かつ一元的な支援体制の構築が必要で、障害者の重度化・高齢化・親亡き後を見据えて専門性や個性に即した支援を関係機関と連携しながら取組んでいきたいと考えています。相談支援から、各サービスへの利用に、一人ひとりのニーズにあった支援が生涯に途切れなく継続的に受けることができる体制を整備していきます。

厚生労働省は、「地域包括ケアシステムの深化・推進」を打ち出し、共生社会の実現を目指し、千代田区も「支援を必要とする人が適切な支援を受けられる360度まるごとケアシステムづくり」を目標に掲げています。

「えみふる」は、今後、職員が一丸となり、またリアン文京との協力体制のもと、様々な支援や障害福祉サービスを充実させるだけでなく、情報発信を含め相談支援体制を強化し、障害のある方もない方も地域活動に主体的に参加できる環境づくりを推進していきます。そして、その中核となる地域生活支援の拠点となり、どなたでも地域で永く住み続けられるように支援していく「えみふる」にしていきたいと考えています。

千代田区立

障害者福祉センターえみふる

施設長 高橋 道也

つたという成果も上がっています。離島である大島という環境で、インフラも少ない中、島の困り事を福祉に繋げる会となっています。何よりも福祉行政・衛生行政・福祉事業者という線の繋がりが、それぞれの顔が見える面の繋がりとすることができました。この繋がりが地域からの課題を探り、大島町の福祉計画策定に提言をするなど、地域の福祉に貢献することが目的です。

## グリーンやぐら

御殿場地区

さくら学園でも、地域貢献活動に力を入れて取り組んでいます。今年度新たに始めたことは、市内の団体が主催する「はらぺこ食堂」という子ども食堂に、活動場所を提供し後援団体としてサポートを開始しました。子供食堂の開催は、まだ1回だけですが、今後も協力を続けて行く予定です。

そして、地域貢献活動として継続して取り組んでいることを紹介します。その名称は、「グリーンさくら」といい、職員の提案によって始まった利用者や職員による施設周辺の清掃活動です。ここ数年、地域・環境整備係を中心に行



夏休み工作教室（きね川福祉作業所）

葛飾地区では、生活困窮者をボランティアとして就労意欲喚起支

っていました。今年度見直しを行い、職員の参加人数を増やすことになりました。より多くの職員が地域貢献活動に参加することで、職員の参画意識も高まるとともに利用者参加も広がり、新たなニーズに対応が可能になるかもしれないと期待を膨らませています。多少の変化があるにしても、地域貢献活動は継続することが大切だと思っ



八王子地区で行われている神社の清掃

## すまいる広場

練馬・小平地区

小平福祉園では、施設の園庭や体育館を地域の親子に遊び場として開放したいと考え、子どもの発達や子育てに悩みがある方も周囲

援で受け入れ、施設での活動に参加し対象者の自己効力感の回復を図っており、就労につながった方もいらつしました。また、地域の祭りとして、毎年恒例の東立石さくら祭やお花茶屋ふるさとまつりに葛飾地区の職員がボランティアで延べ35人程参加して模擬店を出店し、祭りを盛り上げています。施設の地域化とともに職員の地域化が重要と認識し、地域の期待に応えて継続しています。

## しろくまごはん

八王子地区

八王子地区では、これまでに地域・社会貢献活動として触法障害者の地域定着支援や市内福祉事業所の共有ネットワークに関わってきましたが、武蔵野児童学園が子どもや高齢者、障害を持たれた方たちが誰でも安心して暮らせる地域社会を作るための地域貢献事業として、町会や学校、商店、施設、住民などの関係団体が集まる「地域社会で運営する子ども食堂運営委員会」に新たに参画しています。完成したのは元八王子町の城山小学校のおひざ元である「しろくまごはん」という子ども食堂です。一昨年の12月にオープンし、現在

を気にしないで、気楽に遊べる広場を目指し、平成30年4月より、毎週土曜日に「すまいる広場」が始まりました。小平市の関係機関や地域の方からの口コミでゆるやかに広がり、開催日も土曜日というところで父親や祖父母も参加されます。イベントでは、ボランティアによる昔懐かしの玩具遊び、紙芝居サークルの実演やワークショップに参加する中、親子のふれあいを通して、関わり方の気づきや学びにつながる場を提供しています。子どもにとつて魅力ある広場となるのが、親の安心につながり、相談してもよいかと思えるような居場所作りを大切にしています。第二土曜日は、子どもからお年寄りまでを対象としたスマイル食堂（地域向けの食堂）を開催し、世代間の交流を通して、地域の中の「つながり」の拠点と役割を担っています。

## 葛飾地区の取り組み

葛飾地区

白鳥福祉館では、日中活動の一つとして地域の子ども達を受け入れ、ダンス教室を開催しています。毎回子ども達も利用者の皆さんもあふればかりの笑顔でダンスを

は月2回の割合で地域に開放されている、子供たちの学びの場、誰でも気軽に利用できる居場所として定着しています。武蔵野児童学園も食材の調達など裏方のサポートとしてこれからもバックアップをしていく予定です。自法人単体ではなく、他の社会福祉法人や地域の方たちとともに作り上げた地域・社会貢献事業です。

## つっておきの音楽祭

世田谷地区

世田谷地区では地域公益活動の一つとして、世田谷区のノーマライゼーションプランに則し文化芸術活動への取組みを行っています。駒沢生活実習所では利用者作品を展示した「KOMAE展」を行ってきました。その後、世田谷地区施設合同で「クローバーアート」として開催し、さらに輪を広げ地域の施設や障害者施設にも参加を呼びかけ、ものづくりを通じたつながりを大切にしています。区内のギャラリーなどを会場とし、来場客も年々増加しています。創作活動の楽しさだけでなく、利用者がアーティストとして社会参加できる機会として今後も開催を続けていきます。

楽しみ交流の輪が広がっています。西水元あやめ園では、「認知症になっても、住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けることのできる地域」を目指し、認知症カフェ「あやめカフェ」を開催しています。毎回、30名程度の方々が集まり、準備や片付けなどはボランティアの方々を中心に行って頂いています。あやめカフェでは「笑いヨガ」がとても好評です。笑いヨガとは笑いの健康体操です。笑いには伝染し、より大きな笑いの輪へと広がります。参加者の方々同士の関係も深めます。



あやめカフェで楽しいひと時を

東堀切くすのき園では、障害のある人も含め全ての人にとつて安

また、昨年度から「つっておきの音楽祭」の開催に取り組んでいます。この音楽祭は、障害のある人も一緒に音楽を楽しみ、音楽のチカラで「心のバリアフリー」を目指す催しです。今年3月に京王線千歳烏山駅周辺を会場として、「つっておきの音楽祭東京世田谷IN烏山」を開催しました。総勢62団体、301名の出演がありました。手話通訳やバリアフリーの対応を強化することで、障害のある方の出演も6割以上となりました。

今年度4月から地域障害者相談支援センター「ぽーと」から「ま」の運営を開始しました。烏山地域で生活をされている方が対象で年齢や障害の種別は問わず、「ふくしとこころの相談支援センター」として、烏山地域で誰もが安心して生活できるよう取り組んでいます。「ぽーと（誰もが立ち止まれる港）」として地域の拠点になることを目指しています。

今後は、2020年4月には「つっておきの音楽祭東京世田谷」を開催します。ぽーとから「ま」を拠点とし、音楽のチカラと地域のチカラを掛け合わせることで、真の共生社会への一歩として、誰もが生活しやすい社会の実現に向けて取り組んでいきます。

# ニューズ ラウンジ

## 施設建替相互応援

練馬福祉園

練馬福祉園は開設してから35年が経過し、建替が必要な時期に来ています。隣接する大泉障害者支援ホームも同様ですが、それぞれの敷地には余裕がないため、新しい施設を建設する間の一時的な居場所（仮設）の確保が困難な状況でした。もともと両施設は都立民営で開設し、その後委譲を受けて自主運営する立場も同様で、災害時の相互応援協定を結ぶほか、行事の際は境界にあるフェンスの扉を開いて行き来するなど、ふだんから交流がありました。そこで協議した結果、施設の建替をそれぞれ行う際に、お互いの敷地の一部を仮設用地として利用し合うというアイデアがまとまりました。今年の冬から支援ホームの建替工事が先に始まり、練馬福祉園の北東側に仮設を建設して、旧建物の解体と新建物の建設工事を進める予定です。いずれ支援ホームの建替えが完了したのちに、今度は練馬福祉園の仮設のために支援ホームの敷地の一部をお借りすることに

なります。運営する法人は異なりますが、両方の施設が新しくなっていくから、ご近所のつながりを活かして、さらに強い絆を結んでいけると期待しています。



日当たり抜群の仮設用地です

## 朝どれ野菜

希望の里

「希望の里の野菜はおいしい」との評判に因應るべく、年間40種類ほどの野菜を育てています。平成元年の開設当初から畑作業を取り入れ、石ころだらけだった土地を利用者とともに開墾し、当時は小さかった畑も倍以上の広さになりました。山間部に位置することから、サル、イノシシ、シカの被害

もありですが、電気柵等の対策をして、日々奮闘しています。春は、畑に堆肥を撒いて土壌を回復させ、初夏には大量のジャガイモほりをします。夏は、野菜の成長が早く例年採りきれないほど実りますが、今年はいよいよ梅雨と猛暑には野菜も疲れ気味でした。それでもキュウリ、ナス、インゲン、トマトなどを収穫することができました。暑さに強いモロヘイヤや空芯菜は毎年大収穫です。秋は、成長はゆっくりですが、キャベツやニンジン、ホウレンソウ、春菊など様々な野菜が採れます。初冬は、白菜や大根が収穫の時を迎えます。今年、野菜を出荷できる場所が2か所増えました。その関係で、利用者も出荷に同行し野菜を運ぶ仕事が増えて、いきいき活動しています。



美味しい野菜が採れました

# 施設あれやこれや

武蔵野児童学園

夏休みに中高生たちが、福島県相馬市に被災地ボランティアに行きました。ホームステイをしながら、草むしりや農家の手入れで汗を流しました。年々きれいになる海岸でバナナボート乗りを楽しみ、相馬市とのつながりを一層強いのを感じました。

烏山福祉作業所

10月5日（土）に地域交流行事「からフェス」を開催しました。2020オリパラを作業所でも応援しようをテーマの一つとし、当日はエコポニーやボッチャなどのブーイングの運営を地元中学生が担当し、さまざまな交流がうまれました。

リアン文京

シニアの方によるミニコミ誌作成を通しての社会参画推進を図っています。地域から応募したシニアの方に写真撮影、編集方法、ライティングなどを学んでもらいました。いよいよミニコミ誌「文京人」が来年には発刊します。

さくら学園

8月1日に、市内にある国立駿河療養所の納涼祭が開催され、利用者の方と参加してきました。この祭の目玉が3000発の打ち上げ花火。「きれいだね」と言いながら

## 西水元あやめ園

開設20周年

令和元年6月24日、西水元あやめ園で開設20周年式典を開催しました。記念式典には利用者代表と、3組のご家族が列席され、また沢山の来賓の方々もお祝いに駆けつけて下さいました。

葛飾区副区長赤木登様から、「これからの地域の福祉拠点として地域の人達と歩んでいかれるように」と、職員がこれから地域と進んでいく道筋をお話しいただきました。

葛飾区福祉部部長の坂田保義様からは、「入所されている方を



開設20周年おめでとうございます

## 居宅支援事業

「からこる」

小平福祉園

小平福祉園では平成31年4月から居宅支援事業「からこる」を開設しました。小平市内には居宅事業所が少なく、移動支援を待っている利用者が相当数いらっしゃるのと話しを伺い開設に至りました。

開設して感じたことは、行き場のない利用者の方が多いこと。平日は就労継続B型に行っているが、土・日曜日は在宅中心の方、家からは出るが、一日中当てもなく動いていない方など通所している時とは違う様子が浮き彫りになりました。

そこでは私たちは、利用者や保護者からニーズを聞きとり、野球観戦やプール、カラオケなどに行きました。一緒に「楽しい」「また行きたい」「今度は西武ライオンズの試合に行きたい」などを伝えてくれました。また、ある利用者のご家庭では、ご事情で身の回りの生活もままならない状況が続いていて入浴支援を行っていましたが、ご本人から「他の利用者と一緒に温泉に入れて嬉しい」「温泉に早くいきたい」と、涙ながらにその思いを伝えてくれました。

利用者一人ひとりの気持ちに寄り添い支援することは、やさしいことではなく、家庭の内情を知ることでもさらに難しくなりますが、とてもやりがいのある事業だと思います。今年度からの事業ではありますが、密度の濃い数ヶ月が過ぎました。これからも丁寧に利用者や地域の困りごとに関わり積極的に積極的に関わっていきたく思います。



移動に活躍する送迎車

大島恵の園

9月8日、台風15号が直撃し、全島で停電、断水が発生しました。防災委員会で、備蓄食料や必要物品の洗い出しを始めた矢先の災害、水や食事の提供方法、灯りの確保、室温調整等々、課題が明らかに。この経験を事業継続計画に反映していきます。

きね川福祉作業所

9月28日にGENKIまつりを開催しました。今年度は運営ボランティアさんの確保に苦慮しましたが、どうか10人の方に協力していただき、無事終了しました。気持ちの良い秋晴れの中、犬とのふれあいや人形劇のアトラクション等で盛り上がりしました。

練馬福祉園

隣接する大泉障害者支援ホーム建替工事のため、農地を含む北東一帯の敷地を仮設用地として貸します。そのため、農地を正面玄関付近に移転し、花壇も含めて「ラマイロ・ガーデン」と名付けました（「ラマイロ」はネパール語で「楽しい」という意味）。

すぎな愛育園

今年も八王子市心身障害者福祉センターと共催で、夕涼み会を開催しました。息をのむ忍者ショーや、ダイナミックな和太鼓の演奏と太鼓の体験に、子どもも大人も楽しいひと時を過ごしました。400名ほどの方にご参加いただき大盛況でした。



## オープンテラス完成!

### 八王子福祉作業所

八王子福祉作業所の建て替えとともにオープンしたhachiwell lab cafeですが、のんびり過ごせる穴場カフェとして地域の方にも愛され、おかげさまで3年目を迎えることが出来ました。しかし、以前よりお店の入口がわかりにくい、座席数が少ない、午後のティータイムの時間、西日が眩しい等の意見がお客様からありました。そこで今回、お店の正面に庇テントを

設置しました。一気にケーキ屋さ  
んならしい雰囲気となり、西日対策  
もバッチリ!オープンテラスにす  
ることで座席も増えました。これ  
で一気に問題解決!売り上げ増と  
工賃アップが期待出来ますね!



オープンテラスで至福のひと時を

# お知らせコーナー

## 10月

- 5日(土) すぎな愛育園セミナー
- 5日(土) ぼんぼんぼん<sup>2</sup>祭り(九品仏生活実習所)
- 19日(土) 希望の里フェスタ
- 19日(土) かがやきまつり (北町福祉作業所)
- 26日(土) 第18回くすのき祭(東堀切くすのき園)

## 11月

- 14日(木)  
葛飾区障害者作品展(東堀切くすのき園)
- 20日(水)
- 17日(日) 第32回心をつなげる福祉マラソン
- 23日(土) イザ、カエルキャラバン(リンクス柗田)
- 30日(土) 第14回東京大集会

## 12月

- 20日(金) クリスマス会 (東堀切くすのき園)
- 21日(土) クリスマス会 (八王子生活実習所)
- 27日(金) 餅つき会 (八王子生活実習所)

# ショーケース

## 自主生産品紹介

### きたまち工房

### トウインクル

### 期間限定商品のご案内

### 北町福祉作業所

安納芋(あんのういも)を使っ  
たマフィンを販売中です。中に  
入っている安納芋グラッセは、  
仕入れることが出来る時期が毎  
年違うので販売時期が限られま  
す。紫芋の生地と甘いグラッセ  
の風味が美味しいマフィンで  
す。ぜひお買い求めください。



秋にぴったりの一品

## 新製品

### ソーセージパン 八王子福祉作業所

八王子福祉作業所はちウエル  
かふえから、「ソーセージパン」  
が新発売となりました。このボ  
リウムでのお手頃価格に、お  
昼時はお客さんが途切れませ  
ん。ぜひ、お早目のご来店をお  
待ちしています。



チーズとケチャップの相性が抜群

## 武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する  
27施設と9つのグループホームの利用  
者のために、より良い環境や施設の充  
実・施設の円滑な運営などを、物心両  
面から支える組織として、武蔵野会後  
援会があります。皆様のご理解とご協力  
により、会の拡大をはかり、法人の運営  
基盤の確立を応援していますので、ご協  
力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町1-19-3

電話・FAX 042-626-9772